

愛冠岬のエゾシカ野生個体群におけるメスジカの繁殖戦略に関する研究

吉田桃子（北海道大学大学院環境科学院）

【はじめに】育仔は仔の生存率向上に重要である一方、親にとっては時間やエネルギー消費を伴う行動であるため、母親は効率よく確実に仔を育て上げる必要がある。母親のみが育仔を担うことが多く、エネルギーコストの高い母乳による仔育てを行う哺乳類では、繁殖戦略として仔の成長段階や性別、同時に育てる仔の数によって母親が育仔にかかる労力を調整することが知られている。しかし、それが母親の繁殖成功（どれだけ子孫を残せたか）に与える影響については、諸説あり十分に分かっていない。本研究では「仔の性別や同時に育てる仔の数が(1)母親の育仔行動、(2)育仔翌年の出産率と仔の生存率にどのような影響を与えるのか」を明らかにすることを目的に、雌雄で体サイズが大きく異なり、母親を中心とした群れを作るとされるエゾシカ（図1）を対象に、厚岸町の愛冠岬で調査を行った。



図1：エゾシカの母子

【方法】(1)育仔行動の観察は2021年と2024年の6～9月（計2シーズン）に、0歳仔を持つ母親のべ12頭を追跡し（合計657時間）、育仔行動として授乳・毛繕い・2m以内の近接・母仔間距離を調査した。(2)育仔翌年の出産率と仔の1年間生存率は2020～2024年（計5年間）に、育仔中の母親のべ26個体を対象に、翌年の出産後（夏季）に調査を行った。対象個体の出産と前年の仔の有無を確認し、出産率と仔の生存率として算出した。

【結果と考察】(1)育仔行動：仔の成長に伴い、授乳（時間・頻度・許容率）は減少し、近接（2m以内の近接時間・頻度、母仔間距離）は増加することが確認された。また、授乳許容率（仔が授乳を求めた際に母親が応じた割合）は息子より娘の方が高く、母仔間距離は娘より息子の方が短いことが分かった。さらに、母仔間距離は1頭の仔（0歳のみ）を育てる母親より2頭の仔（0歳と1歳）を育てる母親の方が短いことが明らかになった。(2)繁殖成功：育仔翌年の出産率は、1頭の仔を育てた母親より2頭の仔を育てた母親の方が高いことが確認された。一方、毛繕いと仔の生存率で有意差は見られなかった。以上の結果から、エゾシカの繁殖戦略として以下の点が示唆された。①生後初期の集中的な授乳と近接は、「未発達な仔の成長」を助け、「捕食リスク」を回避する上で重要である。②娘への高い授乳許容率は、成長後も母親の元に残り続ける「娘との良好な関係性」の維持に貢献する。息子との短い母仔間距離は、将来メスよりも大きく成長する必要がある「オスの急速な発達」と関係している可能性がある。④同時に育てる仔の数の多さは、「母仔の接触機会」の増加を促し、「母親の繁殖成功」にも良い影響を与える可能性がある。